

解答プリント「中学社会・歴史的分野」

■補充プリント

単元:10 日清・日露戦争と近代産業

【評価の観点】 ㊦：思考・判断・表現 ㊧：技能 ㊨：知識・理解

解答例	解説
<p>㊦ ① 民撰議院</p> <p>㊦ ② 大日本帝国憲法</p> <p>㊦ ③ 日清戦争</p> <p>㊦ ④ 日露戦争</p> <p>㊦ ⑤ 韓国</p> <p>㊦ ⑥ 中華民国</p>	<p>㊦ ① 1874年に、板垣退助・江藤新平らが提出したが、政府はこれを無視している。</p> <p>② 天皇が国民に与えるという形で制定された欽定憲法である。</p> <p>③ Aは中国を示している。当時の中国の王朝は清である。</p> <p>④ Cはロシアを示している。当時のロシアでは皇帝の専制政治打倒を目的とする革命運動が高まっていた。</p> <p>⑤ 1909年におこった初代韓国統監であった伊藤博文の暗殺事件をきっかけとして、韓国併合を行った。</p> <p>⑥ 1912年に成立した中華民国は、アジアで最初の共和制の国家である。</p>
<p>㊦ (1) 自由民権運動</p> <p>㊦ (2) 領事裁判権（治外法権）</p> <p>㊦ (3) 伊藤博文</p> <p>㊦ (4) 孫文</p>	<p>㊦ (1) 民権派による演説会を警官が取りしめる様子が描かれている。</p> <p>(2) ノルマントン号事件を風刺している。ノルマントン号事件は1886年におこった。</p> <p>(3) 伊藤博文は、明治政府の中心であった大久保利通が暗殺された後、政府の最高指導者となった。</p> <p>(4) 孫文は、武装革命に失敗した際、日本に亡命していた時期もある。</p>
<p>㊨ (1) 西南戦争</p> <p>㊨ (2) 国会期成同盟</p> <p>㊨ (3) 教育勅語</p> <p>㊨ (4) 三国干渉</p> <p>㊨ (5) (官営)八幡製鉄所</p>	<p>㊦ (1) 西南戦争は、元士族による武器による最後の反乱となった。</p> <p>(2) 1875年に結成された愛国社が、1880年に改称したもので、8万7000人が署名した国会開設の請願書を政府に提出したが拒否された。</p> <p>(3) 教育勅語は、個人の利益よりも国家の利益を説いたものであった。</p> <p>(4) 三国干渉を受け入れたあと、日本国内ではロシアに対する反発が高まり、政府は軍備を増強した。</p> <p>(5) 八幡製鉄所は、地元の筑豊炭田の石炭と、中国から輸入する鉄鉱石を原料とした。</p>